

## CQ6

## スコープで取り上げた重要臨床課題(Key clinical issue)

JSH2014では積極的適応がない場合の高血圧に対しては、最初に投与すべき降圧薬として、Ca拮抗薬、ARB、ACE阻害薬、利尿薬の中から選択することになっており、β遮断薬は第一選択薬には含まれていない。これまでのエビデンスとして用いられたβ遮断薬は主としてアテノロールであり、カルベジロールやビソプロロールなどのβ遮断薬のエビデンスが取り入れられていない。カルベジロールやビソプロロールなどのβ遮断薬が積極的適応がない場合かつ成人での高血圧に対する第一選択薬として推奨されるかについて明確になれば、臨床決断の大きな助けとなることが期待される。

## CQの構成要素

## P (patients, problem, population)

性別	( (指定なし) ・ 男性 ・ 女性 )
年齢	( 指定なし ・ 18歳以上 )
疾患・病態	積極的適応がない場合の高血圧
地理的要件	医療体制の確立した地域
その他	

## I (intervention) / C (Comparison, controls, comparators)のリスト

β遮断薬(カルベジロールやビソプロロールなど)による降圧治療/他の降圧薬やβ遮断薬間の比較

	outcomeの内容	益か害か	重要度	採用可否
O1	脳心血管死亡率の低下	( (益) ・ 害 )	9 点	○
O2	全死亡	( (益) ・ 害 )	8 点	○
O3	低血圧	( 益 ・ (害) )	4 点	○
O4	徐脈	( 益 ・ (害) )	4 点	○
O5	その他の有害事象	( 益 ・ (害) )	4 点	○
O6	血圧低下作用	( (益) ・ 害 )	4 点	○
O7		( 益 ・ 害 )	点	
O8		( 益 ・ 害 )	点	
O9		( 益 ・ 害 )	点	
O10		( 益 ・ 害 )	点	
O11		( 益 ・ 害 )	点	
O12		( 益 ・ 害 )	点	
O13		( 益 ・ 害 )	点	
O14		( 益 ・ 害 )	点	
O15		( 益 ・ 害 )	点	
O16		( 益 ・ 害 )	点	

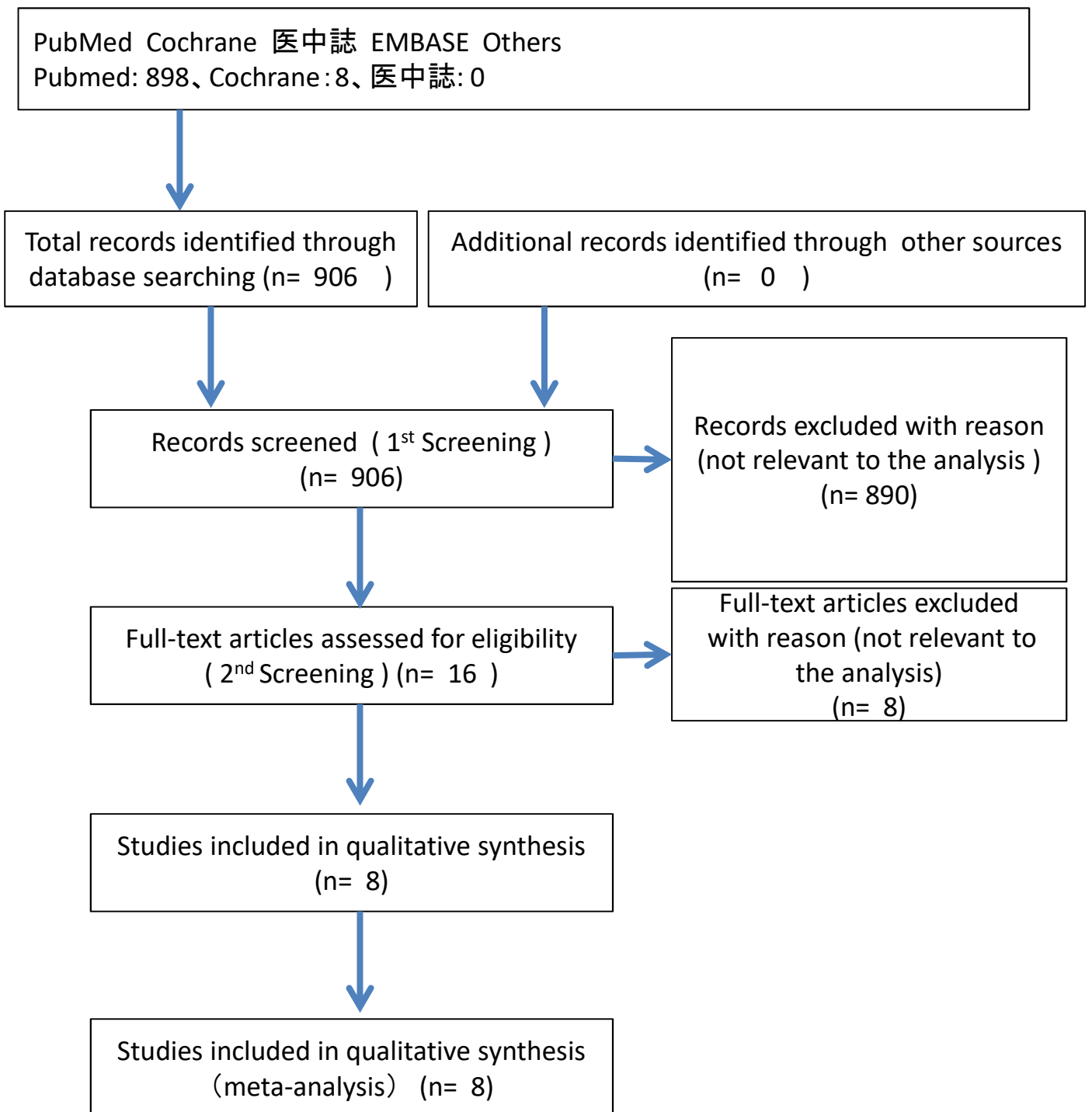
## 最終的なCQ

積極的適応が無い場合かつ成人での高血圧に対して、β遮断薬であるカルベジロールやビソプロロールは第一選択薬として推奨できるか。

文献検索フローチャート

アウトカム

脳心血管死亡率の低下、全死亡、低血圧、徐脈、その他の有害事象



CQ7: 成人の積極的適応がない場合かつ成人での高血圧に対して、新しい種類のβ遮断薬であるカルベジロールやビソプロロールは第一選択薬として推奨できるか。

#### 【4-10 SR レポートのまとめ】

CQ「積極的適応が無い場合かつ成人での高血圧に対して、 $\beta$  遮断薬であるカルベジロールやビソプロロールは第一選択薬として推奨できるか。」に対し、O1(脳心血管死亡率の低下)・O2(全死亡)・O3(低血圧)・O4(徐脈)は文献検索で該当するものがなかった。O5(その他の有害事象)は非直接性・出版バイアス、非一貫性の深刻な問題はなく、バイアスリスクは深刻な問題があるため、1レベルグレードダウンし、最終的なエビデンスの確実性は中と判断された。O6(血圧低下作用)に関しては、ビソプロロールはプラセボに比して有意な血圧降下作用を認めたが、カルベジロールは非一貫性が深刻であり、2レベルグレードダウンし、エビデンスの確実性は非常に弱と判断された。